

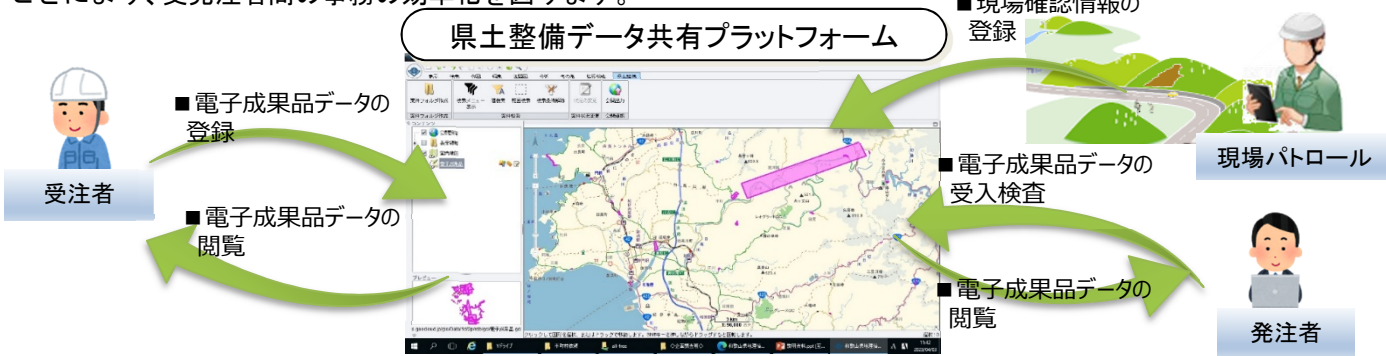
7. デジタル化・省力化などの県土整備部の取組

デジタル化等の取組

DXによる持続可能な社会システムの構築

【県土整備データ共有プラットフォーム】

施設管理に必要な各種情報をデジタル化し、和歌山県地理情報システム上で位置情報に紐づけて一元管理する「県土整備データ共有プラットフォーム」の運用を令和4年2月から開始し、データの蓄積をはじめています。プラットフォームにおいて、オンラインによる電子成果品の登録や工事の施工等に必要となるデータを共有することにより、受発注者間の事務の効率化を図ります。



【「i-Construction」の活用】

ICT活用工事の普及拡大や受発注者間で書類等を交換・共有する情報共有システム(ASP)などの活用により、建設業の生産性向上を図ります。



ICTを活用した工事の状況

【電光掲示板等による通行規制の迅速化】

遠隔操作が可能な電光掲示板等を通行規制区間前後に設置することにより、迅速な通行規制を実施します。



【道路監視カメラの増設による道路管理の効率化】

道路監視カメラの増設により、現地に赴くことなく道路状況を確認でき、道路管理が効率化されます。



監視カメラ画像



監視カメラ

【建築行政のシステム基盤整備】

県内の各事務所が保管している管内の建築計画概要書(紙)をデータ化して、検索閲覧できるシステムを整備します。各窓口の端末で当システムを利用することにより、県内全域の概要書を検索(閲覧等)可能となります。

また道路種別地図(紙)を地理情報データ化してWEB上で広く公開し、いつでも、どこからでも閲覧できるようにすることで、県民等の利便性の向上を図ります。



【河川管理施設(水門・樋門)の自動化・遠隔操作化】

水門・樋門を自動化・遠隔操作化することにより、操作員の安全確保や操作の効率化・省力化を図ります。



【画像解析技術を利用した流量観測】

河川監視カメラ画像で河川流量を自動的に、連続的に観測することで、安全かつ正確な流量を把握することができます。

